

グロース・マインドセットがもたらす未来を信じて

校長 山内 悟

能登半島地震の被害に遭われた方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

本稿の執筆を開始したのは、一月の上旬。能登半島地震の数日後だ。

私の知り合いに、平野敏先生という方がおられる。石川県立輪島高校の校長先生だ。先生は、震災が発生してから、避難所開設や学校再開のために奔走される中、学校ホームページの「校長ブログ」にたくさんの書き込みをしておられる。平野先生の承諾をいただいたので、私の判断で表現の修正や省略等を実施したうえで、少し紹介する。

○一月三日「立ち上がれ！輪高」

一月二日（火）震災後初めて学校に入りました。あまりの酷さに絶句。

私がこれまで目指してきた教育実践とは、戦後の焼け野原で子供達を集め、何にもない広場で教科書もノートも使わずに、どんときも学ぶことを止めてはならないと語りかけ、子供達に希望を与え続けた先生のエピソードです。

輪島市は今、戦場の様相を呈しています。

そんな中でも、決して学ぶことを止めてはならない。それを生徒たちに伝えたい。強く強く、心の底からそう思います。

一日も早い学校の再開を目指します。どんな状況からでも輪高は立ち上がります。

生徒のみなさんは、学校再開の日まで、自分で学び続けていてください。

○一月四日「避難所開設に向けて」

輪島高校に避難所を開設するため、教頭先生と泊まり込みで準備を進めています。

オンラインで生徒の安否を確認していますが、三分の一しか回答が得られません。教頭先生に避難所を回ってもらうと、前期の生徒会長がほとんどの生徒の安否を把握していて、その実行力と生きる力に感心しました。

昼になると、「先生食べてー」と生徒が食パンを持ってきてくれました。スーパーで配っているものを集めて、いろんな人に配って歩いているんだそうです。本当は自分たちだってお腹すいているんだろうけど、ありがたかったです。ほとんど飲まず食わずだったので、心にしみました。

陽が沈むとあたりは真っ暗です。余震が起こるたびに怖くなるけど、その代わり星がとても綺麗です。

○一月五日「電気が戻りました」

ついに電気が灯りました。本当にたくさんのおかげで、普通の生活が守られているんだなあと、あらためて感激です。

電気がってこんなに明るかったんだ。

午後三時過ぎから、避難民の受け入れが始まります。避難生活の疲れからかなりイライラした方も。受付係はお医者さんと看護師さん。本来業務外に駆り出されているのに、クレーム対応までしなければならいなんて、なんだか教員の働き方みたい。

なんやかんやで受け入れ完了が午前〇時。少しでも休もうと横になっても眠れません。そのうち眠くなるかと思いいこのコラムを書いていると、空が明るくなってきました。

○一月八日「今日という一日は・・・」

調理室に忍び込み、奇跡的に無傷の電子レンジを数台発見。温かいものを食べていただくこと、各フロアに設置しました。

とつてもいいことをしたと一人悦に入っていると、突然バチッ。一斉に使用したため、ブレーカーが落ちたようです。

ブレーカーを入れ直すため、自衛隊が駐屯している体育館に潜入。目の前に映画のような光景が広がります。グラウンドにも多くの重機が…。自分が高校生時代野球の練習をしていたグラウンドがこんな姿になるとは…。

とにかく、今日も一日が終わります。いろいろ走り回ってタタタです。今日という日は自分にとってただの一日だったけど、瓦礫の下で亡くなった方にとってはどうしても生きたいと願った一日だったんだろうなと思うと、この疲れこそが生きている証でなんだか尊く感じます。

ここで、皆さんに質問を試みたい。

【問一】 あなたが「校長ブログ」から受け取ったメッセージを、一言で表してください。また、その根拠や理由を説明してください。

【問二】 「自分が輪島高校の生徒（教員）だったら」と想像してください。あなたは、どのような行動をとるでしょうか。また、それはなぜだと思いますか。説明してください。

【問三】 あなたが、被災地の方々のためにできることがあるとしたら、それはどのようなことだと思いますか。

当然、これらの問いに決まった答えはない。【問一】には、様々な答えが返ってくるだろう。「命の大切さ」や「当たり前のありがたみ」といった答えもあるかもしれない。私たちに「命」が与えられ、「今」という瞬間が連続した「時間」を享受できることの意味を皆さんとともに考えたい。

皆さんは（私自身も）自分自身が被災したわけではないから、【問二】の答えを出すのは難しいかもしれない。しかし、他者の状況や心情などを理解するために想像力を働かせることは、とても大切だと思う。ぜひ、そのような姿勢を持ち続けよう。（もちろん、深入りしすぎたりショックが大きくなりすぎたりしないように注意することも大事。）

【問三】の趣旨は、「みんなで災害ボランティアに行こう」ということではない。（もちろん、そういう人がいてもいいけれど。）今すぐでなくても、五年後でも十年後でも、そのもつと先でもい

いから、自分を必要としてくれる人たちのために力を発揮して、その人たちの幸せに貢献できるよ
う、今できること、やるべきことに精一杯の力を注いでほしいと願う。
では、あと少しだけ、平野先生のブログを紹介する。

○一月五日「NHKで語ってしまいました」

コロナ禍による学校閉鎖が終わり登校が再開したときの生徒の笑顔が、忘れられません。なん
やかんや言っても、やっぱり学校が大好きなんです。だから、とにかく学校に来てもらいたい。
もうすぐ登校を開始します。何人集まるかわからないし、教科書のない生徒もたくさん。でも、
その中で何ができるか。先生達は精一杯頑張ります。

「丁寧に」「みんな揃って」「絶対間違いなく」がこれまでの教育だとしたら、「ポイントを絞り」「で
きるどころから」「とにかく走り出す」がこれからの教育だと思うのです。

○一月三十一日「輪島の幼小中を繋ぐプラットホームへ」

本校に小学校と中学校の仮校舎を受け入れることが決まりました。対象は、輪島に残っている
輪島中学生と六つの小学校の児童。

三階には小さな子供達が集うカタリバさん。トレーニング場や武道館には避難をされている
方々、体育館には地域を守る自衛隊の皆さんがいらつしやいます。

まさに、幼稚園からお年寄りまで全ての方々が集まる、生涯学習のプラットホームとしての役
割を担うこととなります。小中高一緒に体育をしたり、高校生による読み聞かせや学習支援をし
たり、この機会でないといけない様々な教育をしかけるチャンスと考えています。いろんなアイ
デアを出し合って新しい輪島を創る、未来の力を育てていきたいと思えます。

金沢方面へ二次避難をしている生徒には、輪島高校から配信される授業や金沢に詰めている先生
による授業を展開。輪島にいる生徒にも、授業のコマ数を増やして、より本格的な授業に近づけ
ていきます。なんだかわくわくしてきませんか。知恵を出し合いながら、より良いものを目指し
て頑張ります。

「笑顔」「新しい輪島を創る」「未来の力を育てる」「わくわく」……。私たちが今行っている
教育、これから行う未来の教育にも必要な考え方なのではないかと思わされる。被災地の平野先生
や先生方、生徒たちから大切なことを教えてもらったような気分だ。

最近、本校の先生方と話をする中で、耳にとまった言葉がある。

「授業や部活動では、生徒が考えることを大切にしている。」

「生徒と対話を続けると、生徒が自ら何かを発見するようになる。」

「動機付けと気付きを上手く促せば、生徒たちは自分たちでやってくれるはずだ。」

私たちは、高志高校生・中学生の皆さんが、自分の可能性の種を見つけ、挑戦と努力によって目
標とする姿に近づこうとする過程を大切にしたい。適切な支援を提供しながら、ほどよい距離感で
寄り添っていきたい。皆さんが、いつか、どこかで、誰かを幸せにすることができるようになっ
てくれることを信じて。